

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

| | | |
|--------------|---|--------|
| 会議名 | 第10回 山ノ内町立学校づくり準備委員会 | |
| 日時 | 令和8年2月9日(月) 午後5時30分～午後6時30分 | |
| 会場 | 山ノ内町文化センター 3階ホール | |
| 出席・傍聴人数 | 出席 22人 / 欠席 7人 | 傍聴者 9人 |
| 会議内容 | <p>【報告事項】</p> <p>(1) 前回委員会の会議結果について(資料1)</p> <p>○南小学校のこどもたちからの意見聴取について(南小学校長から報告)</p> <p>1月26日と2月2日の2回にかけて、新しい学校についての意見聴取を行い、「南小学校の良さ」、「継承したい活動」、「新しい学校に必要なもの」などについて、こどもたちから活発な意見が出された。</p> <p>【会議事項】</p> <p>(1) 山ノ内町立統合学校整備基本方針(案)について(資料2)</p> <p>第9回の意見を受けて修正した整備基本方針(案)について、4グループに分かれ内容に係る意見出しを行い、グループ発表により意見共有を図った。出された意見の修正は事務局に一任し、拍手をもって整備基本方針(案)が承認された。</p> <p>また、令和7年度の最後の会議となったことから、伏木委員長、羽田副委員長からあいさつをいただく。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育長あいさつ | |
| 決定事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・山ノ内町立統合学校整備基本方針(案)作成 ・次年度に係る準備委員会、オブザーバーの報告について | |
| 会議概要及び質問・意見等 | <p>【山ノ内町立統合学校整備基本方針(案)について】</p> <p>① 構成・位置付けに関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4章の閉校後校舎活用について、整備基本方針(案)の位置づけの中にあることに違和感があるため、「附帯事項」等して分けて記載したほうがよい。 <p>② 施設・設備に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの表記の部分をトイレや更衣室といった特定箇所に限定せず、学校全体の設計コンセプトとして広義に捉えて記述したほうがよい。 ・クラス替えを前提とした「2クラス」という固定的な表現を避け、準備委員会が目指す「柔軟な学び」を体現するため、「教室やクラス編成を柔軟に整備する」という表現へ変更したほうがよいのではないか。 <p>③ 運営・今後の検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域学校協働部会」の業務内容も多く大変な部分もあるが、来年度以降の4つの専門部会が相互に連携し、協力しながら進めていく必要がある。 ・統合に向けた移行期間中の保護者の負担(ランドセルや制服の新調)に配慮し、令和8年度からの専門部会等で早期に議論していくことが大事である。 <p>④ 表現・周知に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校統合の背景で「令和11年度に児童生徒数が500人未満」という予測値だけでなく、過去の数値と比較することで、こどもたちの人数が昔に比べここまで減少しているということを伝える表現にしたほうがよいのではないか。 | |

会議概要及び
質問・意見等

〈令和7年度学校づくり準備委員会の活動に係る総括〉

○伏木委員長からのまとめ

- ・第1回目の会議は緊張感があったが、フィーカ方式を取り入れたことで、本音で語り合える仲間になれたと感じている。
- ・11月のシンポジウムの際に出た意見で、教師の力量の向上をそのように図るかという課題に対し、学校統合することで教職員数も多くなり、いろいろな情報共有や研修などがしやすくなると同時に、学校統合の議論を通じて教職員も自分事として捉え、ゼロから学校づくりに携わるプロセス自体が、教職員にとって一生涯の財産となる貴重な研修の機会となると思う。
- ・委員には「地域の代表」としてだけでなく、こどもたちや町の未来を見据えた「当事者」として意見を出すよう求めてきたが、各グループの議論でそれが実現できていたと感じる。
- ・今後は委員が「波紋を広げる存在」となり、住民全体を未来志向の議論に巻き込んでいく必要がある。
- ・コミュニティ・スクールについて、ハード面では従来の「当たり前」の学校を超え、住民が気軽に入れる居場所や、大人にとっても大切な場所となる施設づくりを目指すことや、ソフト面において過去の伝統を守るだけでなく、地域住民・こども・教職員が主役となって「新しい山ノ内の伝統」を共に創り上げることを大事に取り組んでいけたらと思っている。
- ・全国的に不登校が増加する中、こどもたちが自ら学びたいと思える環境（多様な大人との関わり、自分のペースでの学習、好きなことへの追求）にしていけるため、みんなで一緒に考えていきたい。
- ・1年間の成果を来年度につなげ、夢のような学校を共に創っていきたい。

○羽田副委員長からのまとめ

- ・一般的な町の会議は年3回程度で、事務局案がそのまま承認されることが多いが、学校づくり準備委員会は「全く行政の会議らしくない」画期的なものであった。
- ・毎月開催というハイペースでありながら、グループワークを中心に委員から次々と意見が飛び出す、非常に活気ある会議の場であったと感じる。委員全員の思いが詰まった素晴らしい整備基本方針（案）が完成したと感じている。
- ・長年さまざまな会議に出席してきたが、これほど「楽しかった」「ワクワクした」と思える経験は初めてであり、委員一同に感謝したい。

【その他 教育長あいさつ】

- ・「信州学び円卓会議」でも掲げられている「新しい当たり前をこどもと大人が共に創る」姿勢を大切に、山ノ内町をその先駆的なモデルにしたいと思う。
- ・お互いの立場を尊重し合い対話による学校づくりの議論を重ねたことで、具体的な学校のイメージを共有できるまでになったと感じている。
- ・2030年の開校を待つのではなく、今いるこどもや大人が「新しい学校の作り手」として、具現化のプロセス自体をワクワクしながら楽しんでほしい。
- ・来年度の準備委員会はさらにアップグレードを図るとともに、引き続き多様な意見やアイデアを募り、一歩ずつ具体的な形にしていきたい。